

千の風になって

教材研究

学習目標 全体の響きを確認めながら演奏しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わり及び楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 4つのパートの役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (2) 器楽 ア、イ (ア) (イ)、ウ (イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、テクスチャ
用語や記号など：フレーズ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<ul style="list-style-type: none">●曲に関心をもち。<ul style="list-style-type: none">・指導用CDを聴く。・曲の全体的な雰囲気について感じたことを発表する。●曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。<ul style="list-style-type: none">・楽譜(教科書p.12,13)を見て、各パートの動きに注目しながら指導用CDを聴く。・4つのパートそれぞれの役割を理解する。・音色、リズム、旋律、テクスチャなどの特徴を捉え、曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたことをワークシートに記入し、発表し合う。●音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。	<ul style="list-style-type: none">●知曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】●思音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように

<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏したいかについての思いや意図をもち、ワークシートに記入する。 ・どのパートにどの楽器を使ったらよいか、また各パートの人数配分について、グループで意見交換する。 ・担当するパートを決め、そのパートを演奏できるようにする。 	<p>表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p>
<p>●楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解し、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いや意図を実現するためには、どのような音色や響きにするとよいか、またそのためにはどのように奏法を工夫するかをグループで考える。 ・各パートの役割を生かして全体の響きを確認しながら、互いに聴き合って演奏する。 ・グループで追求した成果を発表する。 ・グループの演奏のよさを学級で共有する。 ・題材を通して学んだことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●知楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解している。【観察，ワークシート】 ●技創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能を身に付け、器楽で表している。【演奏】 ●態4つのパートの役割に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】

風にのって

教材研究

学習目標 曲の構成を理解し、表情豊かに演奏しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲の構成に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (2) 器楽 ア, イ (ア), ウ (ア)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：テクスチャ、強弱、構成

指導と評価の計画の例（全2時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●曲に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・指導用CDを聴く。・曲の全体的な雰囲気について感じたことを発表する。 <p>●曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本の太鼓（長胴太鼓、締太鼓など）について知る。・太鼓の唱歌について知る。・楽譜（教科書p.14）を見て、2つのパート（「太鼓1」「太鼓2」）の動きに注目しながら指導用CDを聴く。・曲想と音楽の構造との関わりについて気付いたことをワークシートに記入し、発表し合う。 <p>●テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・テクスチャ、強弱、構成に目を向け、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏したいかについての思いや意図をもち、ワークシートに記入する。	<p>●知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>●思 テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p> <p>* 態 は各時の取組を総括的に評価する。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「太鼓1」または「太鼓2」のパートのどちらかを選び、唱歌を用いたり机を打ち鳴らしたりして演奏する。 ・演奏する中で、思いや意図を再確認する。 ・どのように演奏したいかを発表し合う。 	
<ul style="list-style-type: none"> ●創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けて演奏する。 ・日本の太鼓を用いて、思いや意図を実現するために必要な奏法や身体の使い方を工夫する。 ・隣どうしで「太鼓1」と「太鼓2」に分かれ、唱歌を用いたり、机を打ち鳴らしたりして合わせる。 ・学級全体で「太鼓1」と「太鼓2」を合わせて演奏し、録音（または録画）して演奏表現を振り返る。 ・思いや意図を実現するために必要な奏法や身体の使い方を身に付けて、学級全体で合わせて演奏する。 ・題材を通して学んだことをワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●技創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。【演奏】 ●態曲の構成に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

My Melody

教材研究

学習目標 日本の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音階の特徴及び音のつながり方の特徴や、反復、変化などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 日本の音階を使った旋律づくりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (3) 創作 ア、イ (ア) (イ)、ウ

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：リズム、旋律、構成
用語や記号など：音階

指導と評価の計画の例（全2時間）

●学習内容 ・学習活動	●評価規準【評価方法】
<p>●音階の特徴、音のつながり方の特徴、構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・本題材では、都節音階（平調子）か律音階（乃木調子）のどちらかを選んで箏の旋律をつくることを知る。・都節音階と律音階の2種類の音階の雰囲気の違いなど、感じ取ったことをワークシートに記入する。・どちらかの音階を選び、本時は2小節の旋律をつくることを知る。・音のつながり方や、反復、変化などの構成上の工夫により、旋律のイメージが変わることを感じ取る。・箏の奏法を確認した上で、2人で1面の箏を交代で使用し、2小節の旋律をつくり、ワークシートに記入する。・音階の違い、音のつながり方、音色の工夫、反復、変化などの構成上の工夫により、イメージが変わることについて理解する。・本時を通して学んだことについてワークシートに記入する。	<p>●<input type="checkbox"/>知 音階の特徴及び音のつながり方の特徴や、反復、変化などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*<input type="checkbox"/>態は各時の取組を総括的に評価する。</p>

●リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。

- ・表したいイメージに合わせて都節音階と律音階のどちらかの音階を選び、4小節のまとまりのある旋律をつくることを知る。
- ・どのような旋律をつくるかについて思いや意図をもち、ワークシートに記入する。

●創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。

- ・記譜の仕方について確認する。
- ・2人で1面の箏を交代で使用し、4小節のまとまりのある旋律をつくる。
- ・つくった旋律を発表し合い、それぞれのよさを学級で共有する。
- ・本題材を通して学んだことについてワークシートに記入する。

●**思**リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】

●**技**創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【ワークシート】

●**態**日本の音階を使った旋律づくりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

学習指導案例

1. 題材名

曲想を感じ取って、表情豊かに演奏しよう（器楽） 第1学年

本事例は、「聖者の行進」（アルト リコーダー二部合奏）を教材とした器楽の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」（2）器楽の事項ア、イ（ア）、ウ（ア）、〔共通事項〕（1）アの音楽を形づくっている要素のうち、旋律、テクスチャ、〔共通事項〕（1）イの用語や記号などのうち、フレーズを扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。

イ（ア）曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

ウ（ア）創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。

3. 題材の目標

「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、それらを生かした器楽表現を創意工夫してリコーダーで演奏する。

4. 教材について

「聖者の行進」（アルト リコーダー二部合奏） アメリカ民謡／浦田健次郎 編曲

「聖者の行進」は、スピリチュアルの一つで、アメリカのニューオーリンズでアフリカ系の労働者たちによって自然発生的に誕生した曲である。原曲のタイトルは「When The Saints Go Marching In」で、ディキシランド ジャズのナンバーとしても知られている。ニューオーリンズでは人が亡くなった際、墓地へ埋葬に向かうときは悲しげな曲を演奏し、墓地から戻ってくるときは一転してこの曲のように明るくにぎやかな曲を演奏する風習がある。

本教材は、浦田健次郎編曲によるアルト リコーダー二部合奏で、掛け合い、ユニゾン、和声的な重なりなどの3つの部分で構成されている。スタッカート奏法やポルター奏法などのアーティキュレーションについて、分かりやすく学ぶことができる教材である。アルト リコーダーの運指やタンギング等の基礎を学んできた生徒たちが、曲想を感じ取り、表現を工夫しながら演奏するために最適な曲であると考えた。なお、アルト リコーダーを準備できない場合に、ソプラノ リコーダーでも演奏できるよう「ソプラノ リコーダーの場合」の楽譜が掲載されている。

5. 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<ul style="list-style-type: none"> ・「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。(知識) ・創意工夫を生かした表現で「聖者の行進」を演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。(技能) 	<p>「聖者の行進」の旋律，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。</p>	<p>「聖者の行進」の曲想を感じ取ってリコーダーの奏法を工夫することに関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>
1時	<p>○ (知識) 〈観察，ワークシート〉</p>		↓
2時	<p>○ (技能) 〈演奏 (器楽)〉</p>	<p>○ 〈観察，ワークシート〉</p>	<p>○ 〈観察，ワークシート〉</p>

6. 指導と評価の計画 (全2時間) ※評価規準は省略

時	◆ねらい ●学習内容 ・学習活動	○指導上の留意点
1	<p>◆「聖者の行進」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>●本題材の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・これまでのアルト リコーダーの学習について振り返る。 ・本題材では，アルト リコーダーで「聖者の行進」(二部合奏)にチャレンジすることを知る。 </p> <p>●「聖者の行進」の指導用CDを聴き，曲想に関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導用CDを聴く。 </p> <p>・全体的な雰囲気について感じたことを発表し，学級全体で共有する。</p> <p>●主旋律を全員で演奏する。 <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律の動きを教科書の楽譜で確認する。 ・主旋律を演奏できるようにする。 </p> <p>●楽譜を見ながら「聖者の行進」の指導用CDを聴き，音楽の構造をつかむ。</p>	<p>○運指やタンギングなど，これまでに学んできたことを確認する。</p> <p>○4人グループで音楽表現を追究していくことを伝える。</p> <p>○教科書の楽譜を見せずに指導用CDを鑑賞させる。</p> <p>○「明るい感じがする」「掛け合いが楽しそう」などの全体的な雰囲気を共有できるようにする。</p> <p>○黒板(またはホワイトボード)に，主旋律のみの楽譜を提示する。</p> <p>○最初に，この曲で使う音の運指を確認する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の楽譜（二部合奏）を見ながら指導用CDを聴く。 ・旋律やテクスチュアなどの音楽の構造に注目し、指導用CDを聴いて気付いたことや感じ取ったことをワークシート①に記入する。 ・ワークシート①に記入したことを発表し、音楽の構造について学級全体で共有する。 <p>●指導用CDのリコーダーの奏法に注目しながら「聖者の行進」を聴き、奏法を使い分けていることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの奏法に注目しながら指導用CDを聴く。 <p>・指導用CDを聴いて気付いたことを発表し、リコーダーの奏法を使い分けていることについて学級全体で共有する。</p> <p>●アーティキュレーションについて学び、奏法によって雰囲気が変わることを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッカート奏法とポルタート奏法を用いていることを確認する。 <p>・「聖者の行進」の最初の部分をスタッカート奏法とポルタート奏法で演奏し、奏法によって曲の雰囲気が変わることを実感する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜を見ることで、音楽の構造に目を向けることができるようにする。 ○音楽を形づくっている要素のうち、旋律とテクスチュアに注目することを伝える。 ○テクスチュアの視点から、「掛け合い」「ユニゾン」「和声的な重なり」の3つの部分があることを確認し、さらにこれらの用語の意味を理解できるようにする。 ○はずむような感じで演奏している部分と滑らかに演奏している部分があることを確認する。 ○旋律のフレーズに目を向けるよう促し、奏法との関わりについて意識できるようにする。 ○教科書p.21の「アーティキュレーション」のページを用いながら、ここでは「スタッカート奏法」と「ポルタート奏法」が使われていることを確認し、さらにこれらの用語の意味を理解できるようにする。 ○最初の部分を用いて、奏法の違いを指導者が範奏する。 ○2つの奏法の違いを出すために、タンギングを工夫するなどのポイントを確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ◆「聖者の行進」の旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもつ。 ◆創意工夫を生かした表現で「聖者の行進」を演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表す。 ◆「聖者の行進」の曲想を感じ取り、リコーダーの奏法を工夫することに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○スタッカート奏法とポルタート奏法について確認する。 ○タブレット端末を用いて、Web上の情報サイトや動画サイトを利用してもよいことを
	<ul style="list-style-type: none"> ●アーティキュレーションについて復習する。 ・前時に学んだアーティキュレーションについて振り返る。 ●グループ（4人）で「聖者の行進」の音楽表現を創意工夫する。 ・4人グループをつくる。 ・「聖者の行進」に関わる情報を集める。 	

<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> →「聖者の行進」の曲の背景について知る。 →「聖者の行進」のいろいろな演奏を聴く。 →リコーダーの奏法について調べる。 ・グループでどのような思いや意図をもって演奏したいかについて話し合い、ワークシート②に記入する。 ・思いや意図を実現するためには、奏法をどのように工夫するかについて話し合い、ワークシート②に記入する。 ・グループ内で2つのパートに分かれて練習する。 ・グループ内で2つのパートを合わせ、奏法を工夫しながら演奏する。 <p>●グループでの追求の成果を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「聖者の行進」を演奏し、追求の成果を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループの音楽表現のよさについてワークシート③に記入する。 ・ワークシート③に記入したことを発表し、各グループの音楽表現のよさについて学級全体で共有する。 <p>●本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を通して学んだことをワークシート④に記入する。 	<p>伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○旋律やテクスチャ、フレーズなどの音楽の構造にも留意するよう促す。 ○前時のアーティキュレーションの工夫について想起するよう促す。 ○互いに教え合えるよう声を掛ける。 ○自分たちの思いや意図が演奏の音楽表現に結び付いているか、タブレット端末に録画するなどして確認できるようにする。 ○演奏の前に、どのような思いや意図をもって演奏したいかについて口頭で発表させる。 ○自分たちのグループで追求したこととは違った視点に注目するよう促す。 ○本題材を通して学んだことを振り返り、次の器楽の題材へとつなげる視点について含めながらワークシートに記入するよう促す。
--	--